



2023年1月12日(木)に開催されたCLOMA(*1)第4回技術セミナー「プラスチックのサーキュラーエコノミー社会実現のための未来デザイン」に、日本包装専士会の未来包装研究委員会が「より良い包装未来の姿と生活者起点の協業・協働について～欧米動向を参考に～」という表題で講演をさせていただきます、全国のCLOMA関係者約300名がオンラインで聴講されました。

CLOMA技術セミナーの概要:

本技術セミナーはCLOMA技術部会が定期的に会員向けに行なっているセミナーで、会員のイノベーション創出を推進するための最新技術の提供と情報交換を目的としています。今回は行政(経済産業省)、産総研等の国立研究開発法人や、大学、関連団体から産官学の各界トップランナー、専門家を講師に迎え、グローバルのプラスチック汚染や規制動向等について情報提供を実施。特に欧州パッケージ規則に注目が集まりました。

日本包装専士会未来包装研究委員会の講演内容

Mintel社(*2)の承諾を得て「2022 SUSTAINABILITY BAROMETER」から引用し、生活者の環境に貢献したいという意識は、「地球にやさしい」「環境に良い」という言葉だけでなく、その先に「本当にリサイクルされているのか」「生物多様性を守れているのか」「どうやってそれを実現しているのか」と本質的に変化し、企業に対して説明責任を求めており、各種認証制度と共にエコラベルのような明快なLabellingと説明が重要になることを紹介。

次に、当研究会で調べた情報として、多くの生活者が抱くパッケージに対する疑問「そのパッケージはリサイクルできるのか」「どこに持っていけばリサイクルしてくれるのか」という要求に対して、欧米で採用が進むリサイクルに関するOn-Pack Labelling (How 2 Recycle、ARLなど)の事例を紹介。CLOMAのような組織であるからこそ、日本独自のOn-Pack Labellingを整備(*3)し、企業と生活者のコミュニケーションを拡大すべきではないか、と投げかけさせていただきました。

【Web講演中の未来包装研究委員長】

〔三菱商事パッケージング(株)島田賢一氏〕



2つの“C”(*4)やウクライナでの戦争や分断、エネルギー・資源・食糧の安全保障を通じて、生活者の節約志向は更に高まるでしょう。企業はバリューチェーン全体で「Sustainability to Responsibility」への移行が求められます、と結びました。

(*1)CLOMA...クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス:会長 澤田道隆氏、会員491社・団体

(*2)Mintel社...世界で毎月3万点以上の新商品を分析し、何千人の意見を聞き、消費者の「なぜ」を追究する、マーケットインテリジェンス(市場調査と分析)の第一人者

(*3)日本独自のOn-Pack Labellingを整備...①ピクトグラム・マークと説明、②Recyclabilityの定義と包装設計のガイドライン、③食品と直接接触する部分に再生材を利用する際の食品衛生上の安全性確保

(*4) 2つの“C” Climate Change(気候変動)、COVID-19(新型コロナウイルス感染症)